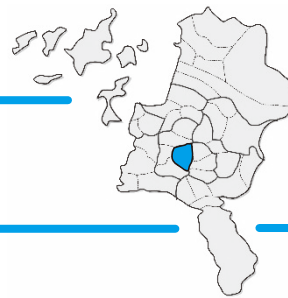


# ばん ちょう 番町地区

人口: 3,895人(高齢化率30.0%)

世帯数: 2,262世帯

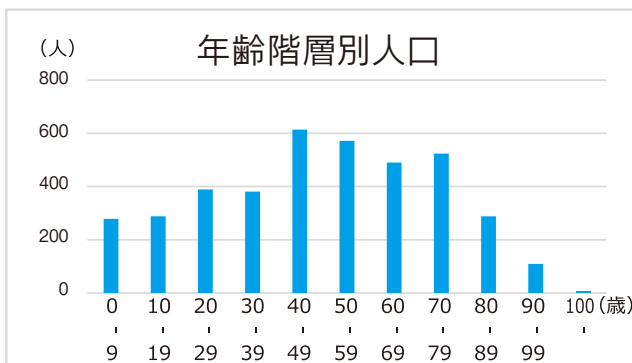


## 【地区の特色】

松山市の中心に位置し、官公庁・金融機関等のオフィスビルが建ち並び、大街道・銀天街・まつちかタウンのショッピングゾーンは連日買い物客でにぎわっている。一方、ドーナツ化現象のため人口は流出傾向にあるが、地域住民の強力な結束を基に、文化・スポーツ活動等が活発に行われている。



松山城と官公庁などのオフィスビル



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中なので夜も明るい</li> <li>・交通機関の利便性がよい</li> <li>・医療機関が多い</li> <li>・柳井町町内会では近所付き合いが盛ん</li> <li>・ゴミ出しなど町内ルールが守られている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーが少ない</li> <li>・近所付き合いが希薄</li> </ul>
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加</li> <li>・スーパーが少なく、高齢者等の買い物が困難</li> <li>・マンションが増え、オートロックマンション等により地域の情報周知が困難</li> <li>・交通量が多く、危険</li> <li>・集いの場が少ない</li> <li>・近所付き合いが希薄</li> </ul>

## 番町地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・共同募金会・小学校・PTA
主な取り組み	活動内容
独居高齢者の見守り	毎年12月に民生委員が見守りをしている独居高齢者へ靴下を配布し、見守り活動を行っています。
高齢者への記念品の配布	地区の80歳以上の高齢者を対象に記念品を配布しています。
小学生と高齢者の交流	小学1年生と高齢者が昔の遊びを通して交流を深めています。

### お茶会(2月頃)

地域の高齢者、保育園児とその保護者が一堂に会しお茶会を実施しています。年長児が、いつも見守ってくれる地域の方や保護者の方に日頃学んだお作法を披露し、成長した姿を見てもらいます。世代間の交流とともに、子どもたちが地域の高齢者を思いやる心を育てています。



### <地区社協が目指すもの>

松山市の中心地に位置する地区のため、諸々の活動に便利な点を活かして近隣地区とも協力し、子どもから高齢者まで住民一人ひとりが社会福祉に参加し、地域内の助け合いの気持ちを育てていける地区を目指します。

地区の状況	■地区民協	11名	■町内会・自治会・区長会等	36団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	3団体
			■自主防災組織	34組織

官公庁や医療機関が立ち並ぶオフィス街であり、交通の利便性がよく、保育園・小学校においても市内全域から園児や児童を受け入れている地区です。そのため、園児とのお茶会や小学生との昔あそびを通して世代間の交流を図っています。こうした活動は核家族化の進む中で、子どもたちの「学びの場」となり、子どもたちの福祉教育の一環となっているでしょう。このような市街地ならではの福祉活動をより発展させることで、地域内の相互交流及び福祉教育の新たな展開が期待できる地域だといえるでしょう。



# 八坂地区

人口:4,951人(高齢化率32.5%)  
世帯数:3,237世帯

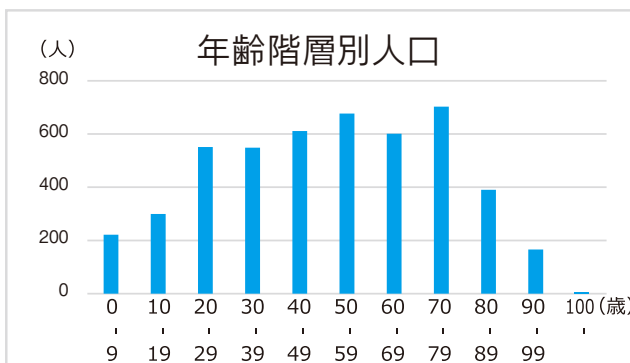


## 【地区の特色】

八坂の名の由来は京都の祇園神社にまで遡ることができる。明治27年12月5日に南八坂町に松山第3尋常小学校が開校し、持田や素鷲の方からも子どもたちが通っていた。この頃から通学区域を八坂校区と呼ぶようになった。現在の八坂校区には30の町がある。行政上の住所表示と異なり、昔からの町名の多くが残っているのがわが町「ふるさと八坂」。人々の交わり地方祭をはじめとする諸行事など生活上の様々な面で、今もそれぞれの街で昔からの強い絆を守りつづけている。



中の川通り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市の中心部(街中)に位置し、飲食店などが多く存在している</li> <li>・マンションが増えている ・教育施設が多い ・高齢者福祉施設が多い</li> <li>・コンビニ、駐車場が多い ・デパート・商店街(大街道、銀天街)が近い</li> <li>・サロン活動が活発 ・元気な高齢者が多い</li> <li>・近所の子どもの顔が分かる ・子どもとの交流が多い</li> <li>・公民館と学校の連携が強い ・公民館行事が多い</li> <li>・街中で虫が見られる ・石手川公園は自然豊かで、人が集う場所になる</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い</li> <li>・子どもがいる世帯が少ない</li> <li>・交通量が多く危険</li> <li>・歩いて行ける範囲にスーパーがないため、買い物が不便</li> <li>・市役所の支所がない</li> <li>・公民館にエレベーターがない(令和6年度に設置予定)</li> <li>・個人商店が少なくなった</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯が増加しているが、見守りの対象にならないため、見守りが行き届かず不安</li> <li>・昔からの住民と新しい住民の交流が少ない</li> <li>・マンション世帯との交流が少なく、世帯の情報を把握できない</li> <li>・交通量が多く危険</li> <li>・子どもがいる世帯が少ない</li> <li>・組織役員の後継者不足</li> </ul>

## 八坂地区社会福祉協議会 気配りの種まき 福祉の芽が出る明るい八坂

構成団体	地区民協・公民館・婦人会・町内会・小学校・PTA・まち協・地域連絡会 自主防災連合会・保護司会・更生保護女性部
------	--

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、2,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。
サロン活動の支援	ふれあい・いきいきサロン4か所の活動が充実し、参加者が健康増進や交流を深められるように支援を行っています。
高齢者への訪問	毎年独居高齢者へ、年末におもち配り、3月3日のお節句にはちらし寿司を配布し、見守りをしています。

### やさかちいきふれあいパーティー

八坂小学校にて1・2年生の児童と地域の高齢者が昔の遊びやゲーム・クイズ、劇の発表などを通して、ふれあう機会となっています。また、給食も一緒に食べながら話が弾み、お互いの心に残る楽しく有意義な時間を過ごしています。



### <地区社協が目指すもの>

八坂地区ではホタルボランティアの人たちが蛍を長年育てており、また、地区の夏祭りで地域の各世代の人が八坂音頭を「みんな輪になり」で踊り継いでいます。

八坂地区社協では高齢者が健康でいきいき活動し、これまで培ってきた緑豊かな自然や人の輪を大切に、少子高齢化の中でも子どもから高齢者まで世代を超えて見守り・支えられるよう元気で心豊かに生活できる八坂を目指していきます。

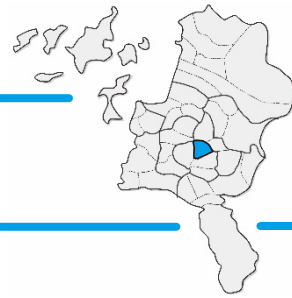
地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	28団体
			■高齢クラブ	0クラブ
			■子ども会	1団体
	■まち協の設立	平成25年度	■自主防災組織	25組織

中心部に位置しているため交通の利便性が高い地区です。その地の利を活用し、地区の夏祭りで八坂音頭を踊り、ふれあいパーティーでコミュニケーションを図るなど世代間交流を深める場づくりが行われています。また、高齢者住民への働きかけの一環として、高齢者訪問やふれあい・いきいきサロン(4か所)を開催し活動の充実に努めています。今後は小学校を中心とした小地域活動を中心に地区社協構成団体との継続した連携・協働を推進することで、住民の暮らしの質はさらに向上することでしょう。



# しのめ 東雲地区

人口:8,852人(高齢化率27.7%)  
世帯数:5,163世帯

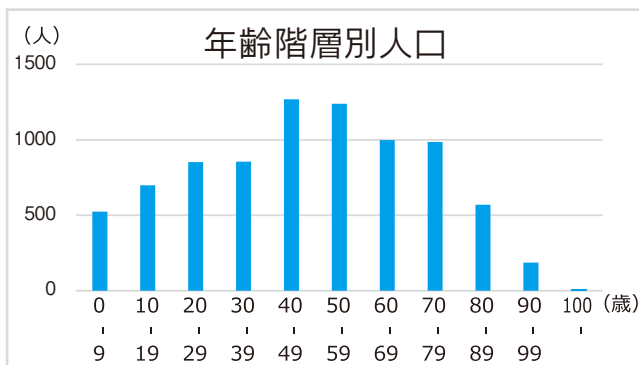


## 【地区の特色】

市の中心部に位置し、交通の便も良く、松山城を間近にみる文教商業地域であり、県知事公舎、裁判所長公舎、中予地方局、警察署等ビル群に囲まれている。また、教育機関も幼稚園・保育園・小・中・高・専門学校・大学とその数は14に及び、文教地区として発展している。



御幸寺山から見た東雲地区



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の中心部に位置し、バス・路面電車が走るなど交通の便が良い</li> <li>・松山城、秋山兄弟生誕地、明教館など、観光、文化施設が多い</li> <li>・中予地方局、松山東警察署、愛媛県総合福祉会館など、行政・福祉機関が多い</li> <li>・一時減少傾向にあった人口が、マンション建設などで最近増加傾向にある</li> <li>・幼稚園・保育園・小・中・高・専門学校・大学があり、教育環境に恵まれている</li> <li>・日赤松山病院をはじめ、医療機関が多い</li> <li>・子どもたちや高齢者の見守り活動が盛んである</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層マンションの増加により、町内会未加入世帯が増加している</li> <li>・高層マンションの増加により、景観が悪い</li> <li>・新しい住民とのコミュニケーションが図りにくい</li> <li>・学生の多い賃貸マンションのゴミ出しルールが守られていない</li> <li>・スーパーマーケットが少なく、買い物が不便である</li> <li>・交通量の増加により、交通事故の危険度が高い</li> <li>・昔のままの道路が多く、道幅が狭く危険である</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯が増加しているため、見守り・情報共有などが困難である</li> <li>・マンション世帯の増加等により、新しい住民とのコミュニケーションがとりにくい</li> <li>・スーパーマーケットが少なく、日常の買い物が不便である</li> <li>・道路幅が狭いため、見通しが悪い・緊急車両が入れないなど危険である</li> <li>・地域福祉を支える側の人材が不足している</li> </ul>

## 東雲地区社会福祉協議会 支えあう力で、明るく、元気な地域づくり

<拠点> 松山市勝山町2丁目11-5 東雲公民館

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・交通安全協会・婦人会 高齢クラブ連合会・更生保護女性会・子ども会育成連合会
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、3,500部を作成し、地域の福祉に関する情報を発信するほか、2ヶ月に1回程度「東雲公民館だよりに」地区社協のスペースをもらい『しののめ福の輪だよりに』としても情報の発信を行っています。
小・中学生との交流	小・中学校で行われる地域福祉の学習や学校行事の事前・事後学習等の時に、その内容に合わせて地域の福祉関係者等が、活動内容や体験を話したり、児童生徒と話をするなどして交流を深めています。
いきいき健康体操教室	地域住民誰でも参加できるように、講師と一緒に、ゆつくり体を動かしながら、普段使っていない筋肉や関節のストレッチをしています。公民館と地区社協が共同で開催しています。

### しののめ福の輪会(中学生と地域住民の交流会)

東中学校での総合的な学習の時間に、「地域福祉」を選択して講義等で学んでいる生徒と、地域住民との交流会です。地域からは、地区社協、民児協、公民館および各サロンの代表者が参加し、地域での活動の実態を理解してもらえるように協力しています。

※「しののめ福の輪会」とは、幸福の『福』、福祉の『福』を東雲地区のなかで、繋ぎ、広げていこう!との思いが込められた愛称です。



### <地区社協が目指すもの>

東雲地区は、多くの史跡、文化財に恵まれた市の中心部に位置し、交通の便も良く、地域周辺にはコンビニをはじめ病院や保健福祉施設、警察署等の立地など住環境に恵まれる中、高層マンション建設等により新たな住民の流入に加え、少子高齢化の進展が著しくなっています。

今後は住民同士の繋がりやふれあいを高め、「地域はひとつ」の絆を高めるため、民児協、町内会等各団体の協力・支援等により各種事業を展開し、子どもから高齢者まで明るく、いきいき生活できる地域づくりを目指します。

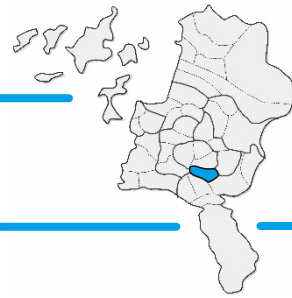
地区の状況	■地区民協	23名	■町内会・自治会・区長会等	38団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	5団体
			■自主防災組織	30組織

観光資源や医療・教育などの社会資源に恵まれた地区です。活動の一つには、しののめ福の輪会があり地域住民と中学生の交流会を通して、さらなる住民間のつながり強化が行われています。また、高層マンションの増加による新しい住民の流入が進む中、健康体操教室などの企画は地区になじみのない方でも参加しやすく、今後の地域福祉活動メニューを考える上で、今後の新たな活動展開が期待できます。



# そが 素鷲地区

人口: 18,623人(高齢化率29.8%)  
世帯数: 11,511世帯

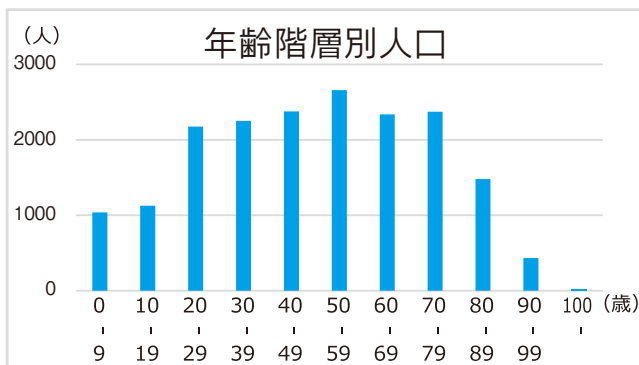


## 【地区の特色】

戦前は純農村地域であったが、近年市街地に隣接する地域として急激に住宅化が進み、通勤にも便利なためマンション等の建設も多く都市化が進んでいる。しかし、現在はそれ以上のドーナツ化現象のため、高齢化率も高くなり人口は横ばい状態となっている。そういう中であって、地域住民間の連帯感が薄れつつあり、近隣間のコミュニケーションがスムーズにっていない地域が増えるなど新たな問題が顕在化し、昔からの地域事情に若干の変化も見えてきている。



どろんこ運動会



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的便利で市内外へも行きやすい ・商店街がある ・高齢者の施設も多い</li> <li>・市内の大きな病院を含め個人病院へも通いやすい ・公共交通の便がよく住みやすい</li> <li>・教育関連機関や生活関連施設が多い ・若い世代の後継者が育っている</li> <li>・まちづくり協議会や民生・児童委員、公民館関係者の連携がとれており、活動が活発</li> <li>・楽しい行事があり、地域住民が協力的(どろんこ運動会)</li> <li>・登校時小中学生の見守り隊(保護者による旗当番)と地域の人による小中学生の見守り</li> <li>・高齢者が気軽に相談できる窓口『そがのよりみち』(包括支援センターとの連携)</li> <li>・公民館が改修され、エレベータや段差解消スロープの設置等バリアフリー化されたことにより、高齢者や車いすの方が利用しやすくなった</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者世帯が多い ・高齢者世帯が多い ・空き家が増えている</li> <li>・道路が狭く緊急車両が入れない ・マンション住民との交流が少ない</li> <li>・仕事など忙しく地域の手伝い等してくれる人の人材不足 ・健康診断の受診率が低い</li> <li>・各種団体の役員、代表者、お世話人さんの後継者のなり手が少ない</li> <li>・子どもの数が減っている ・子ども会や町内会に入らない世帯が増えてきている</li> <li>・一部、公民館や集会所がない町があり、集まれる場がない</li> <li>・低所得者でも安心して入所できる高齢者施設が地区内にない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加(認知症や頼れる人がいないなどの課題)</li> <li>・マンションが多く、把握と見守りがむずかしい ・空き家の増加(防犯・倒壊の危険)</li> <li>・組織役員の後継者不足 ・子どもがいる世帯が増えない</li> <li>・健康診断の受診率が低い</li> <li>・防災訓練を行っているが、実際に支援の必要な世帯(高齢者・障がい者)の参加が少ない</li> </ul>

## 素鷲地区社会福祉協議会

石手川 南に広がる そが福祉

<拠点> 松山市中村3丁目2-34(素鷲公民館内) TEL:089-931-2745

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・サロン代表者・高齢クラブ連合会 まちづくり協議会・自主防災連合会
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、7,400部をカラー版で作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
防災への取り組み	社協・民協・まち協・自主防災など地域内の各団体が日頃から連携し、定期的に防災についての会議や訓練を行っています。
健康についての取り組み	包括支援センターや各団体と連携し、健康増進・生活習慣病の予防のためセルフケア通信の発行や周知の協力、認知症についても認知症サポーター養成講座やチームオレンジの立ち上げに協力しています。

### 福祉講座(10月頃)

福祉課題の中でテーマを変えながら地域住民を対象に福祉講座を開催しています。毎年、分かりやすい内容を提供していることから多くの地域住民の参加があり、好評をいただいています。



### <地区社協が目指すもの>

素鷲地区は、2万人近くの人口となり高齢者が多く、独居高齢者や生活保護受給者も多くいます。交通の便が良く買物や病院へ通いやすく、生活関連施設等も充実しています。毎年、拓南中学校にて松山市消防城東支署の協力を仰ぎながら生徒と一緒に炊き出し、AED体験、ドローンによる撮影、マップ作りなどの防災活動訓練を行っており、地区全体として防災関係に力を入れています。また、まちづくり協議会や他団体と連携しながら少しでもあたたかさを感じられる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協	49名	■町内会・自治会・区長会等	44団体
	民生委員		■高齢クラブ	9クラブ
	主任児童委員		3名	■子ども会
	■まち協の設立	令和2年度	■自主防災組織	29組織

かねてより独居高齢者が市内で多い地区ですが、近年は、新興住宅地の増加に伴いマンションが増えている地区です。そのため、民生委員・児童委員をはじめとする多様な福祉活動が求められます。また、地区防災活動訓練を中心として、中学校を拠点に地区住民参加による取り組みは、連携を促進する上で重要な活動であるといえます。この活動を軸としながら、地区社協構成団体が連携・協働し住民ニーズに基づく福祉講座の開催が行われています。今後は地域課題である独居高齢者対策として、集いや見守り活動など地域福祉活動の新たな取り組みが期待できる地域だといえるでしょう。

